27-17
特67
178
164
62
591

新奇術輕便製版印刷法傳授書

全壹冊

新奇術輕便製版印刷法傳授書發行趣意

本法は彫刻師を以て有名なる半田勝之丞氏化學上十有余年間非常の辛苦を嘗め倦まず撓まず工夫を懲し遂ゝ完成を告ぐ化學上の決果驚くべき一大發明の輕便製版印刷法にして其要は譬へば●圖書●繪画●名刺●引札廣告書●受取書●相場書等の類総て印刷爲さんと欲する所のものをして容易く簡便に僅料なる藥品を以て何人にても自由自在に欲する儘れ製版自ら出來印刷爲し得る其印刷物の如た墨摺彩色共に最も鮮明なる石版摺の如く實に美麗鮮明ふ印刷なし得る新發明奇術乃輕便製版印刷法なり●之を獨り樂み獨り秘す豈氏の本志に在らず如何となれば世の石版師れ如きは普通一般石版を用ひ居るものあれ共更に此法を用ゐる時は石を要せず事足る故ふ其利益蓋し拒大なゝん仍之今回公益の爲めと殊に石版印刷師又は商業家若くば世

の生年時に適業なく苦まる、諸君等の爲め廣く傳授せば或は世を益す幾何ならん歟と氏に進め迫る氏容易ゑ之を肯せざりしも漸く之を諸へり請ふ世を欺く師流のもれと同視し又は蒟蒻版樣のもれと同視の惑を起す勿ゑ

于時明治廿七年六月

著者識

新發明製版印刷法

緒言

柳も本法は石版用インキを以て轉寫紙へ各自判に爲さんと欲する、繪画、圖書、若くは文字等、好む所のものをして、自由自在ゑ認め、之をトタン板の磨きたるものゑ、藥力と磨擦力とに仍りて轉車し尙此判の減滅と印刷の際インキをして餘地へ汚れ着かざる樣、豫防がんため更に調合藥を塗り、又之を洗取りて全く成判爲を而已ならず、機械を用ひず共、普通の刷連を以て、何人にも容易に、印刷出來得るものなり、然れ共初學乃輩にては、唯斯の如き茫漠なる事を言うも、未だ以て完からず、到底實際に至り極めて困難たらん、故に頗を顧えず、章節を別け究えて平易に、何人にも能く解易き、樣勉めて記載し置くを云爾

第一章　製判法

一節　製判板の事

本法は第一着中に、製判板を拵へるを順序と爲す、○製判板も、普通のトタン板を用ゆ其厚薄、大小共各自望み欲する處のトタン板を、ホヲノ木炭（ホヲノキ炭は藥種屋にあり）を以て、能く叮寧に平かに、少しも雲りなく、充分光輝ある樣、砥ぎ磨き、此磨ぎ仕げたる板面を、又極細末なる金剛砂にて鐵槌樣に平かなるものにて能く碾磨べし、斯く碾磨時は金剛砂の砂目板面に附着ものとも、此砂目の附着方は成べく細密ゝ平等なるを良とす、

右の板を能く水にて洗ひ、是へ（硝酸一チンスニ水三チンスヲ）調合なして、直ちに懸け流し、直ぐ清水にて洗ひ、其儘立かけ置輝すべし、

弐節　製判乃事

製判は壹節に言へるが如く爲して、其乾きたるトタン板へ（石版用解き墨）と稱ふる墨よて、新らしき筆を用ひ、紙は（コロンペーパ）と稱へる轉寫紙へ（コロンペーパわ藥種屋にあり）各自望み欲する所のものを認め、之をトタン板え寫すにあり、然れ共斯く言ふ而已にては、到底初學の者解し能はざるべし、之によりて之を想うて、猶再記重復を顧みず、委しく言へば、石版用解墨へ清水を少し入れ、指先にて能く解き、新らしき筆を以て、紙はコロンペーパ（轉寫紙）へ、各自好み欲する所の、繪画、圖面、若くは文字等を認め、此認めし紙を前節にて、乾き揚りたる、トタン板の表面肌面、紙の認めある表面を腹合せに載せ置き、更に又厚紙へ霧を吹き、濡れ氣ある紙を其上へ載せ重ね、猶又其上へ濕氣なき厚紙を載せ置き、確と手よて紙の居去らざる樣押へ、上より刷連（普通の判摺刷連）を以て充分力を入れて磨擦すべし、「此磨擦間に注意をもべきは磨擦中、折々中間に在る、濕氣帶たる紙へ、水氣を呉れ、尚最下にある所の認めものは、愈々

○○○○トタン板へ、轉寫成りたるのを再三剝り見るべし」

若し石版師諸君の又た何人にても、○○○ロール機械の持合あらば、○○○ロール機械にて二度程責め操り、茲に前法と同じく注意すべきハ中間の紙へ水氣を吳れ、又最下ゑ敷ある所乃認めもわ能く、○○○トタン板へ轉寫成りたる歟を、注意し見るべし

以上乃如くする時ハ、已に認めものはトタン板面撮影成るべし、茲ゑおねて、板上の紙を取剝し、(離別仕難き時は刷毛樣の物にて上部より水を敷き剝るべし)然して后、左記乃調合藥を、新しき筆ゑて撮影上、及版面一面面、塗り、凡三時間程其儘平に据置き乾すべし、

三節　調合藥品名

○アラビヤゴム　十目

○五倍子液　五目

○沒食子酸　貳分

○燐酸　一目

○苛性加里　一分五厘

右の五藥を調合すべし、之を前陳乃如く撮影上へ塗るものとす

調合藥乃注意　アラビヤゴムは水にて、能く解くべし、○五倍子液ハ細末のもの五匁目へ、水廿目程入れて一時間斗り煎じる事、此二藥は布にて能くこして用ゆ、

四節　成判仕揚げの事

前節におねて製判爲をんと望む所乃、繪画、圖面、若くハ、文字等、何れも各自欲する所乃物ゑ彼乃解墨を以て、轉寫紙へ書認め、此認めものは今之正に、○○○トタン板へ著明揭然として轉寫成り、其撮影は恰も手にて彫刻製判たるが如く、認めものは顯然たるべし、夫へ調合藥を塗り敷、已に乾

しある所の、トタン成判板乾かたれば、是を水にて洗ひ次に、テレメン油（テレメン油は藥種やにあり）を以て布にて撮影し居る墨を奇麗よ洗ひ落し火にて温め、後ち、ルーラ（ルーラとは石版用の肉棒の事是ハ石版肉を販賣し居る店にあり）を以て、石版肉（石版肉は府下なれば石版肉販賣店あり地方なれバ石版屋若くは藥種やにあり）を、硝子板上にて能く混轉し、然して前言ふ所の、洗ひおとしたる成判板を平擔なる所へ据置て、版面に水氣なき時は、肉が餘地へ附着するの虞れあれば、充分水氣帶たる木綿にて、版面を拭ひ、直ちに右の肉を、又混轉し其肉棒にて原画の現出する迄何度も版面を混轉すべし、（此混轉爲すには一邊毎に、濡氣ある木綿にて、版面を拭き、拭きて又、肉を混轉し、混轉して又、拭く事、（然する時は最初認めものを轉寫したる、當時の如く成代るものなり、此成代ふする事を、稱して肉盛りと言う、如此肉盛を充分黑々と爲したる上へ、ラ

ジンと稱ふる（ラジンとは舶來チヤンの細末にせしものにして藥種やにあり）ものを撒布し、乾ける布にて拭き取りて、后ち之を水にて輕く洗ひ、火にて乾のし又ラジンを今一度敷き、水にて洗ひ、火にて乾すべし、以上にて全く判に成りしものと知らるべし、是が印刷に取掛らるものと知られぬし

第貳章　印刷仕法

壹節　印刷仕法

前章よて完全成判せし、版面へ、石版用インキを、硝子板上にて肉棒を以て充分混轉し、此肉棒にて成判版面へ、又混轉し（此肉棒を以てインキを版上へ混轉する前に、版面を水氣帶たる木綿にて、拭き取り、直ちに肉棒を載せる事、斯爲すわ、全く版面に水氣なき時は、インキ餘地へ附着の虞れなればなり、）直ぐ印刷用紙を載せ、上部より刷連にて、通常の判を摺

る如くし摺るべし、此摺方は一枚摺ては、濡布にて拭きとり拭き取りては、亦インキを前の如く混轉し、紙を載せ摺てわ、後と拭き取りてわ肉捧にて、インキを混轉し摺る事、譬へ何百枚摺るも、餘い皆同じく爲すべし

貳節　摺時の注意

印刷の當時、撮影の餘地え、インキ附着汚し時い、瑕製石灰を、水ま溶解爲したる、極薄き液を、布に着けて印刷中三度に一度は拭き空るへし、〔瑕製石灰わ藥種屋にあり〕

三節　判を仕舞置くの注意

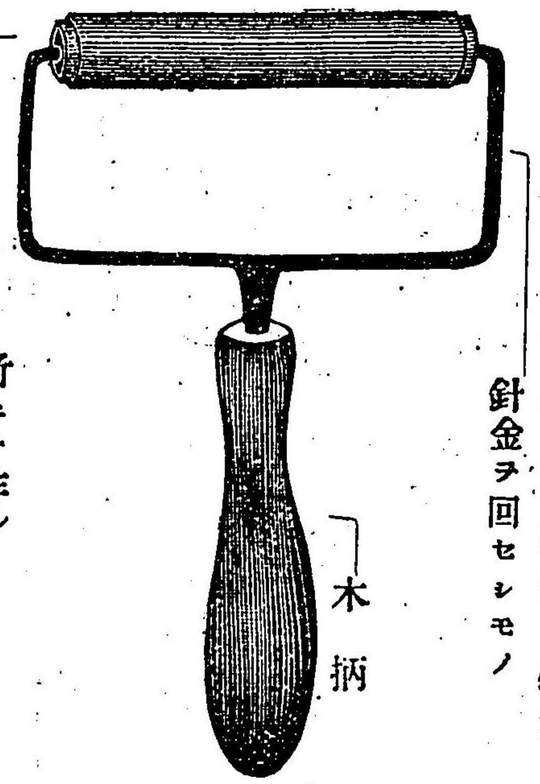
如斯入用丈け摺り取りたる跡、判を入用なれば、其印刷する斗りふなしたる所え、前章三節にある調合藥を、最初れ如く塗り仕舞置くへし、然せば數年仕舞置くも判れ消滅する憂ひなく、又使用の當時は以前の如く爲す事

第三章　印刷用ルウラの製作法

ルウラの製作は、左圖乃如く、インキ附着所は、らを竹の上え、管ゴムを箝めたるものふて、其らを竹え、圖の如く鐵乃針金にて拵ゑれば、宜敷し依之是を製造するは、各自誠に容易く出來得る物なり、

針金ヲ回セシモノ

輕便ルウラ圖



輕便製版及印刷新法傳授書終

明治廿七年七月七日印刷
明治廿七年七月十日發行

定價金壹圓

著述者　東京市下谷區御徒町二丁目十六番地　青木市右衛門

印刷者　仝　神田區榮町三番地　加藤金太郎

發行所　仝　下谷區御徒町二丁目十六番地　青木市右衛門

版權所有

明治廿七年七月七日印刷
明治廿七年七月十日發行

定價金壹圓

著述者　東京市下谷區御徒町二丁目十六番地　青木市右衛門

印刷者　神田區榮町三番地　加藤金太郎

發行所　下谷區御徒町二丁目十六番地　青木市右衛門

版權所有

出品廣告　發賣　品目　文部許可　特賣

鶴八九九一　會員交詢特製品

東京仲町下谷區御徒町通リ池の端

製造元　下谷區御徒町通リ　藤澤商店

發賣元　下谷區御徒町十六番地　石田商店

二丁目

特約販賣所

鶴水は濁印へくへくへ入へ辺文具
携帯◎種々又は汁し得肉消揚を老二等◎等の類
必要なる汁を入れ◎所揚を老二等の類
用便イを入らんこと
のこと流れるのム◎せ木◎
良器を出の入れへ壺ハ◎◎類ナ上の圓四右
右及なとハへを◎壺一イ空の木の
右及なとハへを◎壺一イ空の木の

一携帯用ニ各種ヲ小寸
一形各ハ深サ七分加ヲ
一五分各ハ長サ七分加ヲ
一ノ内ニ各種ヲ小寸
一記ス　一特等ノ記ス　一最尤モ上塗ヲ用ヒ
一最上塗ヲ用ヒ　一表面ニ
一表面ニ　一特等ノ記ス
一價格ハ廉ニシテ便利ナリ　一試用ノ便益アリ　一如カ樣ノ各位ニ必要ナル光榮何ソ之ヲ得ン　一貴ハ貴ハ光榮ナリ　一貴ハ貴ハ光榮ナリ　一貴ハ貴ハ光榮ナリ

一貴ハ貴ハ光榮ナリ

内務省免許丸山家方胃洗丸廣告

胃病妙藥

胃洗丸の特効

藥價　一日分百粒入金五錢

一飲食の過度より、吐瀉、下痢、食中毒、等を起し、そはより胸痛、腹痛を覺ゆるの時ハ、直ちに此胃洗丸を服用せゞるへし、如何なる激痛にても腹藥忽ち五分間に平愈すること疑ひなし

一胃病、溜飲、黄疸、黄疸、肺病、心臟病、疝癪等によ常に陰鬱なる御人は必ず此胃洗丸を服用なさるへし、漸次血強壯、心氣快濶の効を奏せらるゝよと神乃如し。

一子宮病、産前、産後、又ハ婦人月經後よおこる腹痛等よて、最も痛み劇しく苦しまるゝの時は、先づ此胃洗丸を服用なし玉ふへし、即座に汚物を掃ひ、腸胃を健よし心氣を爽快ならしむること奇といふへし

一人には食物に大に好不好ほり、これ多くは胃弱より來る結果なり、如此御人は常に此胃洗丸を服藥なさるへし、必ず今迄好まざりし食物も、時に好まるゝに、到るへし、これ其自然に腸胃を健全ならし効といふ可し、故に是非此胃洗丸を用ひらるへし。

一都て旅行等に出てらるゝの御人は、必ず此胃洗丸を携へらる可し、道中に於て不馴の水を飲れんとする時先之を半包水よて服し然して直ちに水を大に飲るゝも必ず其水に中毒腹痛の憂なく、又毒霧に侵され、穢氣に染まざるゝの憂なのるへし

右列記せし所は胃洗丸特効の大略なり、若し其等の痛に苦しまる、の人、或は其等乃企をおさるゝの方は、試に之を服用なし玉ふへし、必ず在來の藥とは趣を異にし、終には一日も側を離ずこと能はざるゝ至るへし。

●御注文の節は着金即刻郵送す●代金は郵券代用不苦候●郵送料は一貼より七貼迄は金二錢

廣告

エフ齒磨

●袋入二錢五厘●箱入五錢●瓶入十五錢●煉製十五錢

エフ齒磨は英國化學會員學士高峯讓吉先生の秘法にて衛生上無比の良方なり故に貴顯紳士の大賛成を博し販路日に夥し是誠に弊舗の榮なり一度御試用あらんことを希望す

エフ洗粉

●袋入三錢

石鹼は唯垢を濯ふの効あるのみにして肌膚を粗糙すの虞れありゆへに西洋諸國にては面部へ石鹼を用ゆることなし此エフ洗粉わ從來の洗粉と違ひ皮ゆを細かに色を白くし●にきび●そばかす●あせも●ひゝを治する事妙なり効用は他乃洗粉の十分一を用ゐて其用をなせり願くは各位御試驗あらん事を併て茲に廣告仕候

製造元　東京下谷區池の端仲町通り　藤卷藤衛

大販賣　東京下谷區御徒町二丁目十六番地　石田商廈

072115-000-1

特67-778

新奇術軽便製版印刷法伝授書

青木　市右衛門／著

M27

CEE-0144